



S.Setoguchi

THE YOMIURI MILERS CUP

第55回 読売マイルーズカップ (GII)

1着 2着 3着 4着 5着
 本賞 59,000,000円 24,000,000円 15,000,000円 8,900,000円 5,900,000円
 付加賞 1,190,000円 340,000円 170,000円



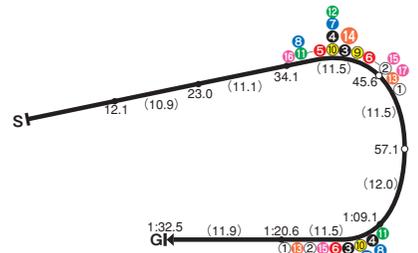
レース映像は
 コチラでご覧
 いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 57%、牝馬2%減、2023.4.22以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2%増、牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1%増、2023.4.21以前のG I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1%増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.4.21 京都 小雨・稍重 芝1600m 国際(指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位 (600m)	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑭	ソウルラッシュ	牡 6	57	団野大成	1:32.5	8-6	34.6	512(+5)	2.4(1)	池江泰寿(栗東)	117
2	③	セリフォス	牡 5	58	川田将雅	1:34	8-9	34.8	498(+12)	3.1(2)	中内田充正(栗東)	115
3	⑨	ニホンピロキープ	牡 4	57	田口貴太	1:34	7-6	35.0	480(±0)	16.6(8)	大橋勇樹(栗東)	112
4	⑤	エアロノア	騾 7	57	幸 英明	1:34	14-9	35.1	488(-16)	69.0(1)	笹田和秀(栗東)	109
5	⑫	ゾウヴァリアント	牡 6	57	池添謙一	1:34	10-9	35.3	504(-16)	18.4(7)	大竹正博(美浦)	
6	⑥	ビーストニッシド	牡 5	57	和田竜二	1:34	6-6	35.8	476(-4)	158.2(1)	小崎 憲(栗東)	
7	⑧	トランキリテ	牡 5	57	武 豊	1:34	15-15	35.1	470(±0)	9.9(3)	松永幹夫(栗東)	
8	⑩	コレベティートル	牡 4	57	岩田康誠	クビ	10-12	35.3	486(+6)	13.9(4)	中竹和也(栗東)	
9	⑨	ボルザコフスキー	牡 5	57	吉村誠之助	クビ	17-12	35.3	512(±0)	64.2(1)	清水久詞(栗東)	
10	①	トゥッドシボン	牡 5	57	藤岡佑介	3/4	1-1	36.7	488(+2)	15.3(3)	四位洋文(栗東)	
11	⑬	セッション	牡 4	57	坂井瑠星	1	2-2	36.7	516(+6)	19.3(2)	斎藤崇史(栗東)	
12	⑦	ノースザワールド	牡 6	57	北村友一	1	10-12	36.0	490(+4)	182.7(1)	斎藤 誠(美浦)	
13	⑮	フリームファクシ	牡 4	57	富田 暁	クビ	4-5	36.6	510(±0)	97.4(1)	須貝尚介(栗東)	
14	④	リュベック	牡 5	57	浜中 俊	3	10-15	36.3	510(+6)	75.2(1)	須貝尚介(栗東)	
15	①	アリストテレス	牡 7	57	古川吉洋	クビ	15-17	36.0	490(-6)	146.2(1)	上村洋行(栗東)	
16	②	スパイダーゴールド	牡 5	57	西村淨也	ハナ	4-3	37.2	494(+4)	123.0(1)	鹿戸雄一(美浦)	
17	⑦	エヤン	牡 4	57	M.デム-ロ	7	2-3	38.5	478(-6)	24.3(3)	伊藤大士(美浦)	

単勝③240円(1%増) 複勝①120円(1%増) ③140円(2%増) ③310円(8%増) 枠連②-⑦380円(1%増)
 馬連③-④400円(1%増) ワイド③-④190円(1%増) ⑨-④690円(6%増) ③-⑨760円(11%増)
 馬単⑨-③710円(1%増) 3連複③-⑨-④2,070円(5%増) 3連単④-③-⑨6,280円(8%増)



通過タイム：600m 800m 1000m 上り：800m 600m
 34.1 - 45.6 - 57.1 46.9 - 35.4

アラカルト

- ・団野大成騎手はマイルーズC初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算8勝目
- ・池江泰寿調教師はソウルラッシュで制した22年に続くマイルーズC3勝目。JRA重賞は本年初勝利、通算95勝目
- ・ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算33勝目
- ・6歳馬の勝利は17年イスラポニータに続く通算11回目
- ・ソウルラッシュの松山弘平騎手は4月20日・京都第4競走での入線後の落馬負傷のため団野大成騎手に変更
- ・騎手変更でのJRA重賞制覇は23年マイルチャンピオンシップのナミュール(R.ムーア騎手→藤岡康太騎手)に続く通算22回目(グレード制を導入した84年以降)
- ・ソウルラッシュは安田記念(G I)に優先出走できる

ソウルラッシュ *Soul Rush*

牡 黒鹿毛 2018.3.28生
北海道日高町 下河辺牧場生産
馬主・石川達絵氏 栗東・池江泰寿厩舎
馬名意味・魂の突進

キャットアリUSA系 F8-c

ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	トニービンIRE ダイナカール
エターナルブーク 黒鹿毛 2013	マンハッタンカフェ 青鹿毛 1998	サンデーサイレンスUSA サトルチェンジIRE
	キャットアリUSA 鹿毛 1999	Storm Cat
		Careless Kitten

5代までのインブリード：Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

下河辺行雄 代表(下河辺牧場)

完成の域に入ってきたと感じています

申し分ないレースぶりでした。負けたレースも含めて年々競馬が上手になっていますし、競走馬として完成の域に入ってきたと感じています。GIは簡単に勝てるものではありませんが、自分の能力を存分に発揮して欲しいと思います。母馬はきれいな仔を出すことが多いですが、今年生まれたキセキ産駒の弟は脚長で肢勢がきれいな馬。こちらにも期待しています。

S.Naka



3歳時の暮れ、マイル戦に照準を定められて軌道に乗った本馬は、1勝クラス戦から翌春のマイラーズC(阪神で開催)にかけて4連勝をマーク。昨年もトップハンデ(59kg)を克服して京成杯オータムHを制し、続くマイルチャンピオンシップではナミュールのクビ差の2着と、頂点のタイトルまであと一歩と迫った。暮れの香港マイル(4着の後、4カ月の休養を挟んで臨んだこの日は、横綱相撲といえる取り口でGI馬セリフオスに完勝。6歳の始動戦を白星発進し、安田記念に向けて大きく弾みをつけた。

父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 詳細はP.6参照

母エターナルブーク

北海道日高町 下河辺牧場生産 中央5戦0勝、地方1戦0勝

ソウルラッシュ 本馬(18 牡父ルーラーシップ)中央18戦7勝(マイラーズC^{G1}2回、京成杯オータムH^{Gm}、春興S、クリスマスC、マイルチャンピオンシップ^{G1}2着、富士S^{G1}2着、マイラーズC^{G1}3着)、香1戦0勝 獲得総賞金384,840,500円

デオ(19 牡父リオンディーズ)中央19戦5勝(東風S・L、斑鳩S、甲東特別) ⑩
ジョアジョルナータ(20 牡父リオンディーズ)中央3戦0勝、地方1戦0勝
アンバサダー(21 牡父マクフィGB) ⑩
(24 牡父キセキ)
※22(死産)、23(前年種付せず)

祖母キャットアリUSA

北米1勝。07年輸入、14年死亡

ダノンエンパイア(08 驕父Empire Maker)持込 中央0勝、地方2勝

ヒラボクディープ(10 牡父ディーブインパクト)中央4勝(青葉賞^{G1}、丹頂S^{G1}、水仙賞、モンゴル大統領賞^{G1}3着)、種牡馬
ワンダフルワールド(11 驕父タイキシャトルUSA)中央3勝(うち障害2勝)
エターナルブーク(13 前出)

曾祖母ケアレスキトゥン Careless Kitten

アメリカ産 北米1勝

ロレンゾーニ Lorenzoni(86 牡父Clever Trick)北米3勝(ブリーダーズフューチャーティ^{G2}2着、イロコイS・L3着、ワールドアビールS3着)

アドヴァーサリアル Adversarial(87 牡父Fit to Fight)北米12勝(サミングS・L)

アルカディアヒーロー Arkadian Hero(95 牡父Tremolino)英、仏、北米、首7勝(ミルリーフS・英^{G2}、ハンガーフォードS・英^{G3}、クリテリオンS・英^{G3}、ホープフルS・英L、ハックウッドS・英L、リボンチャンピオン2YOトロフィーS・英L、アットマイルS・加^{G1}2着)

ケアフリーチーター Carefree Cheetah(96 牡父Tremolino)英0勝、**ウォリアーガール** Warrior Girl(ダブルドッグデアS・米^{G3}3着)の母
キャットアリUSA(99 前出)

カフェララーUSA(01 牡父Stravinsky)中央0勝、**カフェプリッツ**(逆瀬川S、甲南S、ダイヤモンドS^{G1}3着)の母

GI獲りへ弾みをつける、隔年制覇

阪神競馬場のスタンドリフレッシュ工事にともなう振り替えて、今春の京都開催は6月の宝塚記念まで続くロングランの日程が組まれている。その開幕を飾る安田記念の前哨戦・マイラーズCは、ソウルラッシュとセリフオスが人気を二分。他馬と比べ、傑出したマイル実績を持つ両馬は順当に1、2着を占め、2年前の覇者でもあるソウルラッシュが1番人気の支持に応えて隔年制覇を果たした。

お昼前から降り始めた雨のもでゲートが開くと、最内枠を引いたトゥードジボンが立ち遅れ気味のスタートから注文をつけて先手を主張。第10レースから稍重へ変更された芝コースに速

いラップを刻んで逃げる。セリフオスは中団の内につけ、ソウルラッシュの団野大成騎手はその外を追走。昇級初戦の洛陽Sで最後方から2着に追い込み、一角崩しの期待をかけられたトランキリテは後方3番手で未脚を温存し、直線勝負に構えた。

前日のレースで落馬負傷した松山弘平騎手にかわり、代打の手綱を託された団野騎手は積極的に3コーナーの坂の下りから進出を開始。前を射程に収めて直線に向き、早々に先頭へ躍り出る。残り200m地点を過ぎてからは、馬群の内々で脚を溜め、ワンテンポ遅く仕掛けられたセリフオスも反撃。馬場の内めを突いて伸びてきたが、ソウルラッシュの脚勢は最後まで陰らず、相手の逆襲を寄せ付けずに危なげのないフィニッシュを決めた。

3歳時の暮れ、マイル戦に照準を定められて軌道に乗った本馬は、1勝クラス戦から翌春のマイラーズC(阪神で開催)にかけて4連勝をマーク。昨年もトップハンデ(59kg)を克服して京成杯オータムHを制し、続くマイルチャンピオンシップではナミュールのクビ差の2着と、頂点のタイトルまであと一歩と迫った。暮れの香港マイル(4着の後、4カ月の休養を挟んで臨んだこの日は、横綱相撲といえる取り口でGI馬セリフオスに完勝。6歳の始動戦を白星発進し、安田記念に向けて大きく弾みをつけた。